

定期報告

2011年6月1日(水)

天候:晴れ 温度:内 20°C 外 8°C 湿度:48% 風:微風

放射線量:0.09 μ Sv/h:持参線量計 palmRAD Dosimeter Model 1621M (BNC)

食事 朝:ご飯、ベーコンエッグ、ウインナー、みそ汁
昼:炊き込みご飯、カップラーメン
夜:村岡医師チームと外食

氏名:原田 生知(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

5:50 起床

6:30 朝食

三上総務によるベーコンエッグ、ソーセージ、サラダ、味噌汁、ご飯。味はもちろん見た目もなかなか。ホテルの朝食並みの出来栄え。
朝食後、室内清掃。

7:50 散歩兼ミーティング

雨が続き実施できなかった散歩ミーティングを実施。長谷川理学療法士も参加し、本日の行動予定を確認。高校下の被災地も前回と比較すると随分と瓦礫の撤去が進んだ。しかし、ここ数日の降雨により大きな水たまりがいくつも出来ており、梅雨、台風本番の季節を控え、今後の衛生環境悪化が懸念される。寒い日が続いたせいか悪臭は生じていない。

8:45 救護所カンファレンス

愛知県保健師チームより、避難所の食事管理に関する問題点の報告があった。配膳後の回収がないため、一部高齢者に長時間経過したものを摂取している状況が散見され、食中毒発生の懸念ありとのこと。
これから夏に向けて食中毒対策と啓発の重要性を確認。避難所生活では冷蔵庫がなく、食品保管が難しい。クーラーボックス、氷の手配等のアイデアが出たが、保健師チーム単独での解決は難しいため、避難所本部、学校管理者を交えて対策を取ることになった。併せて学校プールの水が交換されておらず、衛生管理上問題があったため保健師チームが高校側に働きかけ、プールの水交換を実施してもらったと報告があった。
保健師チームの活躍が目覚ましい。

保健師チームより救護所の受診者情報提供の要望があった。受診者情報を共有することにより、保健師活動での質問重複を省き、より効率的な問題把握につなげたいと

のこと。村岡医師の許可を得て、本日より受診者の氏名、生年月日、受診内容を薬剤師がデータ(エクセル)を作成し、翌日カンファレンス時に提供することとした。その後も理学療法士チームと保健師チームの打ち合わせが続いた。連携が上手く取れて両チームとも精力的に活動している。

本日午前は受診者が少なかった。昨日に引き続き五戸薬剤師に薬局業務の仕切りを任せた。昨日は月末だったが、救護所利用者が救護所閉鎖と思ひ込み駆け込み受診が多かったようだ。本日はその反動だろうか。色々なところで情報の共有がなされていない。それぞれのチームと避難所本部の情報共有が上手く出来ていない。町田アンド町田商会チームは総務担当も同行しておりその機動力と情報収集力を生かし、各チームの間に入り、連携強化の中心を担っていけるように思われた。

11:30 午前診療終了

12:00 昼食

炊き込みご飯とカップ麺をセレクト。村岡医師より高級ブドウの差し入れがあった。

13:00 午後診療開始

午後も、受診者が少なかった。前チームからの申送り事項である救護所ベッドのシーツ交換の件、五戸薬剤師の対応で保健教諭の古川真弓先生がいらっしゃった。古川先生は震災時出張中で震災後初めて保健室に入ったとのこと。保健室の余りの変わりように驚いていた。シーツは新しいものを自衛隊に手配してくれることになった。また今まで使用していたシーツも洗濯してくれるとのこと。保健室戸棚内に保管されていたOTCは申送りでは大槌高校保健室備品とされていたが、先生に確認したところ、学校のものではないと判明。薬局で管理することにした。

13:50 青森県医師会の中村医師の訪問あり。

救護所撤収に向けて現地状況調査と撤収日程調整のため来訪されたとのことだった。

村岡医師と意見交換された後、薬剤保管状況、宿泊場所の食品、備品の状況を原田より説明した。医薬品は県立大槌病院へ移す予定であるが、その在庫量は中村医師が想定していたよりかなり多いため、移送までの保管場所と人手の確保に悩んでいた。

中村医師より夜間受診状況等を鑑み、本日6月1日より当直解除の指示があった。救護所内のOTCについては中村医師より避難所本部または高校保健室に寄贈し、必要時使用してもらおう案の提示があったが、OTCの区分上、第1類、指定第2類については薬剤師を介さない使用の場合、副作用発生時の責任問題等があるため、当社薬剤師と災害対策本部で取り扱いを検討する方向で話を進める許可を得た。

15:00 大槌町医療機関視察

受診者が少ないため、村岡医師の許可を得て大槌町内医療機関視察へ三上、葛西総務とともに出発。5月31日で沖縄 JMAT が撤退した城山体育館救護所と県立大槌病院小槌神社仮設診療所を訪問した。

城山体育館救護所では引き続き日赤巡回医療チームによる週3日の午前診療があるとのことでつくし薬局が開局していた。薬局スタッフに挨拶。つくし薬局は当面救護所内業務を続けるが、植田診療所の移転開設に伴い、引っ越す予定とのことだった。

県立大槌病院小槌神社仮設診療所では駐車場で偶然、中村医師と再会。せっかくなので、中村医師に同行させていただき診療所を訪問し岩田院長、佐山薬剤科長、柏崎薬剤師と話をする機会を得た。

県立大槌病院仮設診療所はプレハブが完成したが、浄化槽設置が間に合わず、オープンが6月21日以降にずれ込みそうとのこと。中村医師より大槌高校救護所活動が6月10日で終了する旨岩田院長に説明があった。救護所閉鎖に伴い、薬剤、医療機材保管場所の確保が必要であることが判明し、一度病院薬剤部から救護所に状況確認に来てもらうこととなった。その際の連絡窓口は当社で担当するよう中村医師から依頼あり。薬剤部の柏崎薬剤師と連携して実施することとした。

佐山薬剤科長は4月1日赴任。震災時は一時柏崎薬剤師1名で5名の医師の処方に対応していたとのこと。被災直後の大変だった状況を聞くことが出来た。また、直後の中村医師の応援により、大槌高校救護所業務から県立大槌病院業務に移行することが出来大変感謝しているとの話であった。

16:30 釜石カンファレンスへ出発

17:30 釜石カンファレンス

本日より17:30開始、週3回開催となる。5月上旬は参加者も50名程度であったが沖縄、大阪チームが5月31日で撤収したこともあり、参加者25名程度とだいぶ小じんまりとしていた。

カンファレンス前に薬剤師会窓口担当中田薬剤師と救護所OTCの取扱いを検討。第1類と指定第2類を薬剤師会に回収してもらい、その他適切な管理下で使用できそうなOTCは避難所本部へ寄贈することとした。当社としては撤収までに避難所管理者、班長へのOTC使用レクチャーを行うこととした。なお、OTC回収は6月4日土曜日中田薬剤師が訪問し実施される予定。

18:00 シーガリア釜石にて入浴

18:30 釜石で夕食

本日より当直業務解除となったため全員参加。サッカーキリンカップを見ながら大いに盛り上がった。なお、避難所本部には緊急時連絡先として薬剤師の携帯番号を伝えた。連絡はなかった。

21:30 大槌高校到着

しばし、歓談後就寝。明日は最終日。最後まで気を引き締め活動に当たりたい。

氏名:五戸 貴紀(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

- 4:00 起床 報告書作成
- 6:00 OTC救急箱在庫確認
5月31日の在庫から、新たにバファリン2錠使用されていた。
夜、発熱した16歳の方が服用したとのこと。
- 6:30 朝食
- 7:40 町田ミーティング
- 8:45 救護所内カンファレンス
保健師チームから、避難者の健康状態を把握するため、
救護所受診者の主訴、処置内容、処方薬の一覧表の作成依頼があり、
明日の救護所内カンファレンスで渡すことになった。
- 9:00 午前診療開始
長谷川・苫米地理学療法士、保健師チームは救護所内巡回。
- 11:30 午前診療終了
- 11:45 早めの昼食
- 12:30 救護所ベッドのシーツ交換がしばらく行われていなかった。
新しいシーツがないため、自衛隊を通じ、支援物資として新しいシーツや布団を要望することになった。
救護所内カルテ置場の近くで、手つかずのOTCを大量に発見。支援物資として入ってきたものだそうだ。
- 13:00 午後診療開始
原田薬剤師は小槌の診療所視察へ。
苫米地理学療法士、三上・葛西総務担当が大槌町内を視察。
長谷川理学療法士は、避難所を巡回。
五戸は残って、薬局業務。
- 16:00 午後診療終了。
- 17:00 釜石カンファレンスへ
原田薬剤師、長谷川理学療法士、五戸で参加。その後入浴。
- 18:30 夕食 チーム最後の夕食でもあり、親睦を深めた。
- 22:00 就寝

氏名:三上 洋一(総務担当)

体調:良好

行動日誌

- 5:30 起床
- 6:30 朝食
- 7:30 散歩、朝のミーティング
- 9:00 午前診療開始。
- 10:30 釜石周辺視察。
- 11:15 昼食準備
- 11:30 昼食
- 13:00 午後診療開始
理学療法士 苫米地さんと大槌町内視察。
- 14:30 原田薬剤師と、大槌町内視察。
- 15:30 小槌神社仮設診療所を視察。
- 17:30 釜石災害対策本部カンファレンス(本日より月・水・金の 17:30～)
総務買出し
- 18:00 入浴
- 18:45 村岡医師チームと食事
- 21:30 大槌高校到着後、就寝

天気は快晴だった。原田薬剤師と視察時、間もなく大潮の満潮時刻と重なる時間で、波は穏やかだったが、地盤沈下した漁港では、海水がたくさん流れ込んでいた。そのすぐ傍らで、作業をしている方々も多くいたので、早急な対応が必要だと思った。

また、漁港のすぐ近くでは、広島県警の警察官の方が、大勢で瓦礫の中を捜索しているようだった。

町内には、「全国の皆さん、自衛隊の皆さんありがとう！」という看板、垂れ幕がたくさん見受けられた。自衛隊の方が瓦礫の撤去などを目で行うため、被災者の方々は、感謝の気持ちでいっぱいなのだろう。

お礼の看板こそないが、警察官や役所の方も交通整理や、避難所での宿直、巡回などをやって裏方に徹している。

氏名:葛西 豊誠(総務)

体調:良好

行動日誌

- 6:00 起床
- 6:30 朝食
- 7:00 掃除

7:30 散歩、ミーティング
9:00 診療開始
9:30 三上総務と視察
11:15 昼食準備
11:30 昼食
13:00 苫米地理学療法士と町内視察
14:30 原田薬剤師と町内視察
17:00 釜石へ出発
17:30 カンファレンス、総務は買い出し
18:00 入浴
18:50 外食

町内視察: 港町、赤浜地区へ(魚市場など水産業の地区)

悪臭いがひどい。害虫防除の車を発見した。

薬を散布すると、瓦礫の中に隠れている大量のハエが一斉に出てきた。

白の散布保護服に、大きいハエが何匹もついていた。

そのまま直進した。

大潮で満潮になると道路と海水の高さが同じになると聞いていた場所へ来た。

ちょうど満潮だったようで道路が冠水していた。

冠水した道を越えて、東大海洋研究所へ向かった。

警察隊がいた。

瓦礫の中を手作業で、何かを探していた。

私たちはその場から静かに離れた。以前は警察隊がいない地域だったが、3ヶ月たった今も捜索している現実に驚いた。